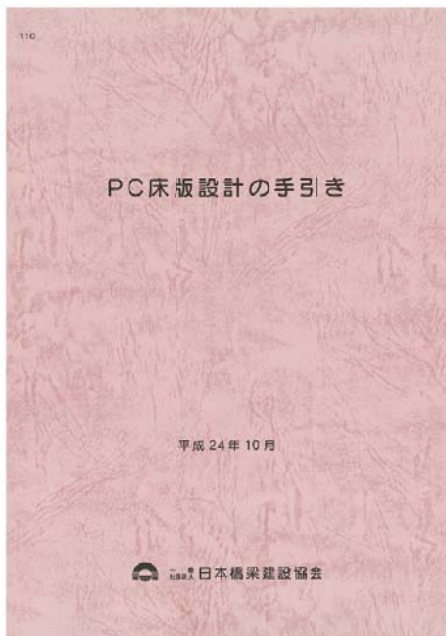


「PC床版設計の手引き」再版のお知らせ

平成19年3月に発行された「PC床版設計の手引き」は、平成24年3月の道路橋示方書やコンクリート標準示方書の改定を踏まえ、引用箇所の見直し等を行い、再度印刷を行うこととしました。内容は従来通り、道路橋示方書の流れを汲みつつ、その規定範囲を超える場合の取り扱い方法については、高速道路会社での設計指針や研究・検討結果に基づいて試案を示す内容となっております。

また、プレキャスト、場所打ちなど、製作・施工方法の異なるPC床版について、その特徴をふまえて記述しており、協会が別途発行している「PC床版施工の手引き」(場所打ちPC床版編、プレキャストPC床版編)と補完するものです。

※ なお、本文中で見直した箇所の一覧を次ページにて掲載しておりますので、そちらも参照下さい。



(価格：1,000円 消費税込)

本手引きの内容

- 第1章 総則
 - 1.1 適用の範囲
 - 1.2 用語の定義
 - 1.3 記号の説明
 - 1.4 設計の前提となる施工条件
- 第2章 参照すべき基準類
 - 2.1 参照すべき基準類
- 第3章 荷重
 - 3.1 荷重の種類
 - 3.2 荷重の組み合わせ
- 第4章 使用材料
 - 4.1 鋼材
 - 4.2 コンクリート
 - 4.3 プレキャストコンクリート板相互の接合および鋼げたとの接合に用いる材料
 - 4.4 緊張材
 - 4.5 橋面防水工
 - 4.6 設計計算に用いる物理定数
- 第5章 許容応力度および制限値
 - 5.1 一般事項
 - 5.2 鋼材の許容応力度
 - 5.3 コンクリートの許容応力度
 - 5.4 橋軸直角方向の制限値
 - 5.5 橋軸方向の制限値
 - 5.6 許容ひび割れ幅
- 第6章 PC床版の設計に関する一般事項
 - 6.1 適用の範囲
 - 6.2 設計計算の原則
 - 6.3 床版の支間
 - 6.4 床版の最小全厚
 - 6.5 断面力の算出
 - 6.6 床版部材の照査
 - 6.7 床版を有するけた構造の取り扱い
 - 6.8 施工時における変形および応力の取り扱い
- 第7章 構造別 PC床版の設計
 - 7.1 適用の範囲
 - 7.2 床版設計の基本方針
 - 7.3 場所打ち PC床版
 - 7.4 プレキャスト PC床版
 - 7.5 構造細目
- 第8章 支間 6mを超える PC床版の設計
 - 8.1 適用の範囲
 - 8.2 床版の最小全厚
 - 8.3 床版の設計曲げモーメント
 - 8.4 床版作用と主げた作用の重ね合わせ
 - 8.5 構造細目
- 第9章 地覆・壁高欄の設計
 - 9.1 設計一般
 - 9.2 地覆・壁高欄の施工
 - 9.3 プレキャストコンクリート地覆・壁高欄のグラウト
- 第10章 鋼げたの設計に対する関連事項
 - 10.1 適用の範囲
 - 10.2 一般事項
 - 10.3 垂直補剛材
 - 10.4 横げたの構造
 - 10.5 ずれ止め
 - 10.6 そり
- 第11章 コンクリート構造の横げたに対する関連事項
- 参考資料 膨張材使用についてのこれまでの経緯

「PC 床版設計の手引き」の再版に伴う修正箇所について

箇所	変更前	変更後																																		
はじめに	本書で道路橋示方書の規定を越えて記述した主な部分は以下のとおりです。 1)・・・ 2)・・・ 3)・・・	本書で道路橋示方書の規定を越えて記述した主な部分は以下のとおりです。 1)・・・ 2)・・・ 3)・・・ 4)連続合成桁にプレキャスト床版を用いる場合の中間支点付近の接合部におけるひび割れ幅の照査案(追加)																																		
P.1, 1.1 解説文(1)	(1)本手引きは、～ RC 床版に多くの損傷が報告され、これにともなって、平成 14 年度の道路橋示方書の改訂で性能規定が示された。 道示Ⅱ鋼橋編 8.3 では床版支間 6m 以下の～	(1)本手引きは、～RC 床版に多くの損傷が報告され、これにともなって、平成 14 年度から道路橋示方書の改訂で性能規定が示された。 平成 24 年道示Ⅱ鋼橋編 9.3 では床版支間 6m 以下の～ (道示の改定による引用箇所の訂正等)																																		
P.4, 2.1 本文, P.6, 3.1.6 本文, P.9, 4.2.3 解説文, P.10, 4.4.2 本文および解説文, P.10, 4.4.3 本文, P.16, 5.4 本文, P.23, 6.4 解説文, P.23, 6.5.1 解説文, P.25, 6.5.2 解説文, P.26, 6.5.3 解説文, P.27, 6.6.1 解説文, P.27, 6.6.2 解説文, P.29,6.6.3 解説文, P.31, 6.7.4 解説文, P.32, 6.7.5 解説文, P.32, 6.7.6 解説文, P.33, 6.7.7 解説文, P.36, 参考文献 1), P.43, 7.3.3.2 本文および解説文, P.48, 7.4.3.2 本文, P.51, 7.5.1 解説文, P.52, 7.5.2 解説文, P.52, 7.5.3 解説文, P.63, 8.3.2 解説文, P.69, 8.5.1 解説文, P.73, 9.3 本文および解説文	(上記と同様, 道示, コンクリート標準示方書の改定による引用箇所の訂正)																																			
P.9, 4.3.1 解説文	(1)プレキャスト床版コンクリートと間詰部コンクリートでは～. 間詰部コンクリートの単位膨張材量として 30～50kg/m ³ の使用例があり, 単位膨張材量は 40kg/m ³ 程度を標準としてよい.	(1)プレキャスト床版コンクリートと間詰部コンクリートでは～. 間詰部コンクリートの膨張材は近年の使用実績から低添加型 20kg/m ³ を標準とし, コンクリートの強度とセメント量を考慮して 150～250μの膨張ひずみを得ることができる添加量を試験練りで決定するのがよい。 (最近の使用実績と整合させた)																																		
P.12, 5.2.1, および P.17, 5.5	鉄筋の種類は SD295A と SD345 を併記	道示の改訂にともない, SD295A を削除																																		
P.14, 5.3.2 本文中の表-5.3.4	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">応力度の種類</th> <th>40</th> <th>50</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">曲げ引張応力度</td> <td>(1) プレストレッシング直後</td> <td>1.5</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重</td> <td>PC 構造 1.5 1.8 PRC 構造 0.0 0.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軸引張応力度</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	応力度の種類		40	50	曲げ引張応力度	(1) プレストレッシング直後	1.5	1.8	(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重	0.0	0.0	(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重	PC 構造 1.5 1.8 PRC 構造 0.0 0.0		軸引張応力度	0.0	0.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">応力度の種類</th> <th>40</th> <th>50</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">曲げ引張応力度</td> <td>(1) プレストレッシング直後</td> <td>1.5</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重</td> <td>PC 構造 0.0 0.0 PRC 構造 5.4参照</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軸引張応力度</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(曲げ引張応力度を修正)</p>	応力度の種類		40	50	曲げ引張応力度	(1) プレストレッシング直後	1.5	1.8	(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重	0.0	0.0	(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重	PC 構造 0.0 0.0 PRC 構造 5.4参照		軸引張応力度	0.0	0.0
応力度の種類		40	50																																	
曲げ引張応力度	(1) プレストレッシング直後	1.5	1.8																																	
	(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重	0.0	0.0																																	
	(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重	PC 構造 1.5 1.8 PRC 構造 0.0 0.0																																		
軸引張応力度	0.0	0.0																																		
応力度の種類		40	50																																	
曲げ引張応力度	(1) プレストレッシング直後	1.5	1.8																																	
	(2) 活荷重および衝撃以外の主荷重	0.0	0.0																																	
	(3) 主荷重および主荷重に相当する特殊荷重	PC 構造 0.0 0.0 PRC 構造 5.4参照																																		
軸引張応力度	0.0	0.0																																		
P.41, 7.3.2.2 解説文	(1)引張応力に対する補強鉄筋量を算出する際, 用いる鉄筋の許容引張応力度は以下のとおりとする.	(1)引張応力に対する補強鉄筋量を算出する際, PC 鋼材を引張鉄筋と見なせる場合, 鉄筋の許容引張応力度は以下のとおりとする.																																		